

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4490500107-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成31年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みどりの郷の名の通り、施設周辺には田畑や森林に囲まれています。豊かな自然環境の中、施設の庭には四季折々の木や草花が植えられ、花の香り、鮮やかな花の色をみながら季節を感じて頂いています。ゆっくりとした時間を提供します、一人ひとりの思いを尊重します、地域と交流を円滑にするという理念を掲げて、家庭的な雰囲気の中、ゆったりとした時間を提供し、入居者様一人ひとりがご自分のペースで日々ゆったりとした中で生活できる様、寄り添いながら支援しています。今までの本人様の生活歴や趣味を本人様、ご家族さまより伺い把握し、出来る事や、やりたい事に目を向けたサービスを提供しています。ご家族様がいつでも面会に来て頂ける様な雰囲気作りを大切にしています。入居者様の様子はお手紙や面会時に報告しご家族様に様子をさせて頂いています。地域の作ったお米を食事にお出して美味しくいただいています。また、秋には施設主催の祭りを通じ地域の方ふれあいの場として毎年実行しています。月1回の会議にて各入居者様について、振り返り、必要とする援助、内容を検討し、適した介護用品や食事提供を行っています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日当たりが良く家庭的で落ち着いた雰囲気があり、施設の庭で桜見物が出来るなど自然と共生出来る施設です。自治会に加入し、清掃活動、お祭りに参加するなど、地域との繋がりを大切にしています。事業所のお祭りには、地域住民の参加があり、地域との交流が継続的に行われています。医療面では、連携体制が確立しています。職員の仕事に対する満足度が高く、笑顔でゆとりある対応を心がけているため、利用者も穏やかに過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニットのホール内の目の届くところに掲げて職員で共有している。毎月の職員会議では会議が始まる前にスタッフ一同で唱和し、理念を意識しながら入居者様の対応を行っている。意識の統一を図り、日頃より理念に添った介護を目指している	理念を家族・施設を訪問する人に分かりやすいよう内容・掲示場所を配慮し、地域密着型の役割を理解し、利用者が地域での暮らしを続けることを支える為、理念に添った対応がなされ、採用時に理念を説明し、共有に取り組みられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の清掃活動に参加したり、施設で行われる秋祭りには地域の皆様へご案内し、参加をいただいている。お祭りには地域の方に出し物をして頂いた。地域との交流はまだ足りないのもっと日常的な交流を行える様に、日頃から地域出かける機会を持ったり、地域の催しもの等に参加していくなどの活動が必要である	地域の一員として、回覧等配布し施設の行事を積極的に広報・案内し、地域との繋がりを保たれています。重度化に伴い外出が困難となる場合も発生しますが、中学生の夏休みの研修・地域ボランティア等の受け入れに取り組み、近隣の方より「さつまいも」等、新鮮な野菜等の差し入れもあるなど地域とのふれあいを大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の情報など発信は出来ていない。地域の方の認知症のご家族様の相談を受け、自宅へ訪問し、体験入所をいただいた。その他は、具体的な行動が出来ていない。毎年、社協主催の夏休みのボランティア活動の受け入れ施設として参加をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。施設での行事や日頃の様子を写真を使用して説明、報告している。開会、会議開催にあたって家族の方にアンケートを出し、意見や質問をいただき、頂いた意見をもとに家族の方に施設での取り組みなども合わせて報告し、運営にも活かしている	4～5名くらいで、定期的に運営推進会議に取り組み、外部評価の受審など施設の報告だけでなく、委員の皆様から地域の行事や施設に対する、意見を頂くなど双方向による対応がなされています。	現在、取り組まれている運営推進会議のメンバー体制を地域の区長・民生委員・地域住民等の協力を頂き、一層充実した体制の構築を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センターの職員の方に参加していただいている。佐伯市主催の講演会の案内、現在注意しないといけない事など情報をいただいている。会議に欠席した場合は会議録をお届けしている。運営や請求など不明な点など介護保険課などに問い合わせ連携を図っている	介護保険・健康保険・生活保護法の改正など分かりにくいことや不明なことは、訪問し指導を仰いでいます。認定更新時、利用者の新たな課題等発生した場合など、電話や直接窓口に行き相談対応をなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会より、身体拘束チェック表を作成し、毎月項目の添ってチェックしている。グループ内の勉強会を通して身体拘束の理解を深めている。身体拘束をしないケアに努めているが、時間帯や職員のホール内に人数などにより玄関内ドアの施錠を行っている。	虐待委員会を毎年3回ほど、外部からの講師や施設内研修等により、定期的に開催し拘束にならない支援に取り組み、外に出たがる利用者には、一緒に外出し、施設周辺を散歩するなど、本人がパニックにならず、日常生活維持への対応がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会にて、対応や声かけなど気になった事を話し合っている。目標を掲げてそれに向かって日々介護を行っている。高齢者虐待についてのグループ内にて勉強会を行った。日頃より言動に注意し、職員一人ひとりが言葉、身体的、心理的などの虐待を行わないという気持ちを持ち日々の介護を行っている。職員同士の注意が出来るようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者様はいない。支援はできていない。勉強する機会が持てていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約を交わす際には、契約書の内容を説明し、説明後には、疑問点等がなかったか伺って入居者様や家族の方が安心して頂ける様に努めている。契約内容に理解を頂いた上で契約書に署名、捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回無記名のアンケートを行って意見を頂いている。2ヶ月に1回、運営推進会議の出席のアンケートの際にも意見や質問を伺っている。意見や質問の結果は後日書面にて報告している。面会時にも意見や要望を伺っている。	意見・苦情には真摯に対応し、改善する体制を整えています。意見・要望等が少ない状況です。面接・家族会さらに意見箱・地域包括支援センター・国保連等でも意見の申し出が出来るなど、相談窓口への周知も行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議には本社より上席に参加してもらっている。業務内容の変更、施設内の必要物品の購入等、職員の意見や要望を上席にも聞いてもらっている。意見は本社より対応してもらっている	ミーティング・職員会議・勉強会等で意見が出た場合、反映できる体制が構築されていません。日常的な支援の中で感じる、支援方法・気づき・アイデア等に対する意見には上司と協議し対応がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を組む際に休みの希望を取って、なるべく希望が叶えられる様に柔軟な対応をしている。有休も出来る範囲で取れる様にしている。永年勤続表彰、リフレッシュ休暇がとれるように会社が配慮してくれている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の方が講師のグループ内の勉強会に参加したり、研修のお知らせを通して、職員が研修に参加をしている。資格取得に向けて勤務の調整を行っている。施設内にて勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内のグループホームと交流会を持ち入居者様や職員と交流を持っている。佐伯市内のグループホーム協議会に加入し、話し合いに参加している。グループ内のグループホーム通しの交流以外に交流が出来ていないのが現状である		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けると、ケアマネジャーさんや病院の地域連携室と連携しながらご本人様、御家族と合わせていただき、パンフレット等にて施設についての説明や、質問、心配な点を伺っている。入所前には施設見学をお願いしている。施設の特徴や設備職員態勢等についてご理解していただき、入所に対しての不安が少ない状態で入所して頂ける様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けると、ご本人様や御家族と直接お会いして出来る範囲で本人様の様子や御家族が困っている事、心配な事などを伺う様にしている。入所前に施設見学に来ていただき関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった時には、ご本人様や御家族と直接お会いして話をしている。本人様の様子、病状を踏まえ、許可をいただけたら、グループ内施設の相談員や看護師と一緒に面会させていただき、本人様に合ったサービスが提供できるようにしている。また、施設に見学に来ていただき、施設や、サービス内容の説明を行っている。ご本人様や御家族様の希望に応じてグループ会社の他種類の施設の説明をさせていただいたり、パンフレットをお渡ししている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべての入居者様ではないが、身体状況に応じて施設内での家事を一緒に行っている。行って頂いた後にはなによりも感謝の気持ちをお伝えてしている。日々の生活の中で入居者様より、生活の知恵や昔の歌、戦争体験からの平和の尊さなど教えて頂く事も多く、尊敬の気持ちを常に忘れず日々介護にあつたている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方に、お手紙に写真を添えて普段の様子を報告している。面会の際には家族の方にご様子や体調など普段の様子を報告している。面会時などご自宅で過ごしていた時の様子、若いころの事など情報交換を行い、介護の中で迷った際など、介護の方法などを伺ったり、意見をいただき、それを参考に対応をしている。また、入居者様の要望があればお伝えし、必要物品や好きな物などを面会時などに持って来て頂いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診の病院の中で地域の知人に会い会話や交流ができた事もあった。また、知人が面会に来た際に楽しく会話をした事もあったが、数人で数が少ないのが現状である。面会にきて頂きたいという事が発信されていないのでご家族様を通じて知人の方等にお知らせしていきたい	入所時に、本人を取り巻く人間関係を把握し、電話・手紙等連絡をとってほしい要望があるときは、家族と協議し、馴染みの環境が維持できるよう対応がなされています。担当職員を配置するなど本人と馴染みの職員が継続的に支援できる体制が構築されています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の人間関係を把握し、気の合う入居者様同士が楽しく過ごせるように、テーブルの席を配慮したり、話題を提供している。また、かるた、散歩などの趣味活動を通して入居者様同士が交流できたり、関わりが持てるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、加療にて退所された入居者様の中には、遠方に住むご家族様より依頼を受け、入院中の病院へ必要物品をお届けしている。グループ内施設中心になる、転居された入居者様に面会に伺ったり、一緒に行う行事の際に会って会話をしている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日頃の会話、表情、行動から思いを把握している。本人様より伺えない、会話が困難でわからない場合は家族の方からも希望や要望を伺いながら把握に努めている。	本人の表情・発する言葉・動き等で何をしたいのか、何が好きなのかなど察し、家族・管理者・担当職員を交えて検討し、本人本位の支援に取り組みがなされています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に伺ったり、入居者様との会話や、家族の方に伺い、生活歴、馴染んだものの、好きなもの、嫌いなもの等アセスメントに書き込んでいます。アセスメントは個人ファイルにはさんで誰もがみれるようにしている。把握した事は普段の会話などに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、連絡ノート、会議などを使用して職員間で入居者様の情報を共有している。また、職員会議で入居者様の心身の状態について話し合い状態の把握に努め、一人ひとりに合った過ごし方が出来る様にケアの統一を図っている。また、日々の観察にて入居者様の居心地の良い場所や、やりたい事などを把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を作成の際には、本人様、御家族様に施設の生活について要望を伺い、計画書に意見を取り入れている。会議にて目標の評価をしたり、課題、サービス内容が現在の状況と合っているか、計画書を継続して良いかなど見直しを行ったり、意見を出し合っている	カンファレンスを通じ、担当職員の意見を頂き、計画作成の折に参考とし、本人・家族等の意見を聞き、本人が好む生活が出来る介護計画となるよう、又、症状の悪化・生活環境の変化等に伴い、モニタリングを実施、関係者の意見を受け入れ、見直しに取り組まれています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき、変化、会議で検討した対応の結果や声かけの結果など個人ファイルや申し送りノートに記載したり、申し送りの際に各職員へ伝えて情報の共有、ケアの統一を図っている。介護計画書の作成や見直しの際に活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方や、本人様より必要物品購入の希望があれば購入したり、遠方の御家族様より面会時に宿泊希望があり対応したり、地域の居宅ケアマネジャーより依頼があり、地域の方で、家族の外出の為に体験利用があり、受け入れを行った。しかし、入居者様全員の細かな要望については対応出来ないのが現状である			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や本人様の希望により、市内の訪問美容師の方に来設していただき散髪を行って頂いている。佐伯消防署の方に協力していただき、避難訓練を行い、指導を受けるなど地域資源を活用している。地域資源の把握、活用はあまり出来ていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や御家族の希望を伺い、入所前から受診している主治医は変更しない対応を行っている。受診の際には、職員がケア車を送迎し受診に行き、主治医に体調を報告したり、相談などを行い、家族の付き添い希望があれば最近の体調をメモするなどして主治医との連携を図っている。	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっています。検診も利用者のかかりつけ医に定期的を受診し、専門医の受診の支援も行われ、その際には家族の協力を得ることがあります。家族・医療機関・施設と連携をとりながら支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務、訪問看護ステーションより看護師が体調管理の為のバイタル測定をして、入居者様の健康管理を行っている。体調変化などがあれば、介護職より報告、相談、を行い、指示を頂き連携している。状態の変化に応じた支援を行っている。また、看護師の指示は職員の連絡ノートに記入し情報共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合には、施設での様子、入院までの経過などを入院先の病院へお伝えしたり、退院の際には、病院の相談員の方より情報を頂き、連携を取っている。また、入院中もお見舞いに行ったり、地域連携室の相談員の方に話を聞き様子を伺っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	説明書にて重度化した場合、施設にてどの様な対応が可能なのか説明を行っている。入所の際に重度化で当施設での対応が困難になった時の説明も行っている。重度化の希望書を作成し、本人様や、御家族様の希望を伺い、書面に残している。病状悪化し、状態に変化があった時には毎回ではないが、看護師も同席し、希望を再度うかがったり、施設内の対応について説明を行っている	入所時に施設として出来ることの説明を行っています。本人・家族等の希望を伺い書面に残していますが、体調の変化等があった時はその都度医療関係者も含め施設として出来ることの説明や、再度本人・家族との話し合いを持ちながら出来る限り希望に添えるよう支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。看護師が作成した急変時のフローチャートがあり、緊急時はそれに沿って対応を行っている。定期的に勉強会を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の方に施設に来て、協力を頂き避難訓練を行い、指導をいただいている。近くの川が氾濫したと想定して隣接施設と合同で夜間水害訓練を行った。いつ発生するか分からない災害に対して今後も訓練を継続していく。地域との連携が足りないので区長さんのお願ひし、災害時更に地域との連携が取れるようにする	定期的に様々な想定避難訓練を行っています。消防署の協力は得られているものの、地域の方の参加はこれからの課題としており広い視点での訓練を実施し、今後の対応に生かしていくよう予定しています。	少しでも早く地域との連携がとれた訓練を実施され、今後の対応に生かされることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念でもある入居者様の一人ひとりの思いや気持ちを大切にしながら、人生の先輩として尊敬の念を持ち接するように心がけている。入居者様にとって恥ずかしい事(排泄等)は大きな声を出さない様になっている。個人情報に関しても、取り扱いに注意し、個人ファイルなどは戸棚や引き出しに直して見えない様になっている。	年に1回研修が行われ、職員全員で常に利用者の尊厳やプライバシーに配慮された支援に努めています。職員間で、お互いに気になることがある場合は直接その事について話し合い、管理者を通じてその都度確認しながらよりよい支援に繋がられるよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ入居者様が答えやすく、意思を出して頂ける様に声かけを行っている。希望を表すのに時間がかかっても、さりげなく待つなどして時間を取るようにしている。入居者様の状況に応じて二者択一にする、難聴の方には筆談など入居者様の希望を伺っている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、入居者様の希望に応じて、起床の時間、食事の時間、など希望があれば、添う様に対応を行っている。時間帯など状況によっては希望に添えない時もある			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが自分でできる方には自由にしていただいている。自力で行うのが困難な入居者様には服を選んでいただいたり、本人様の希望に添える様、質問しながら支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、数名の方には、野菜の皮むき、食後にはお盆吹き、食器洗いを行ってくださっている。食事の献立も、嫌い、苦手な食材は別のもにに変更したり、リクエストを聞いての献立に取り入れている	食事をより楽しんでもらえるよう、準備等一緒にして頂いています。食事の希望も、会話の中から聞き出し家族からも聞き、機会をみて献立に反映したり、近所の人から季節の作物をいただくことがあり、季節感を感じてもらうことを大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事摂取量を記入する表を作成し記録に残し、摂取量を把握している。水分摂取量が少ない場合などにはジュースなど好みのものを出して水分摂取量が増えるようにしている。また、体調に応じて食べやすいものの変更している。入居者様の食べる力を把握し、職員会議や、日々の中で話合って入居者様にあった大きさや柔らかさ、水分にトミを付けるなどの対応をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居者様の状況に合わせて歯ブラシ、口腔スポンジ、歯菌洗剤を使用しながら口腔ケアを行っている。協力歯科医があり、歯や歯菌の調整など連絡し治療をして頂いている			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者様の個別の習慣を把握できるよう努めている。チェック表を用いて定期的の声掛けや誘導を行っている。尿取パット大きさも入居者様に合わせて変えている。なるべくトイレでの排泄が出来るようにトイレ内の手すりの位置を変化させたり、トイレにはイラスト入りの張り紙をしてわかりやすくしている	職員全員が把握できるよう排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの変化に柔軟に対応された処遇に努めています。便秘予防や自然な排便を促すため、食事や運動等に配慮され利用者の体調等個々に添った対応に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に応じて水分や運動を促している。排泄チェック表にていつ排便があったか、何日排便がいているのか把握している。看護師と連携し、緩下剤などの指示をいただき、服用し、排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や入浴日が決まっており、午後や夜間など希望する時間帯に対応が出来ないのが現状。なるべく希望する日に入浴を行ったり、同性の職員の入浴介助を希望する際には職員が替わったり、入浴剤を活用して入浴が楽しめるようにしている	体調や気分に対応され、より入浴を楽しんでもらえるよう出来る人は準備を一緒にし、入浴剤を活用したり入浴時の雰囲気作りに配慮されています。入浴後の保温等のケアも家族等に相談され個々にあった支援をされています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮してゆっくり休息がとれるように自室のベッド、ホール内のソファなどに案内している。夜間は好きなテレビを見た後に寝るなど好きな時間に就寝が出来るように支援している。夜間なかなか寝られない時には温かい飲物を飲みながらおしゃべりする等の対応を行っている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、名前、日にち、何食後なのかを声に出し確認し、薬を本人様の手の中に入れて飲んだのを確認している。処方箋を個人ファイルに入れて確認ができるようにしている。また、薬が変更になった時や症状が出た時には申し送りノートに記載している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様や家族の方より伺った生活歴などを参考にして、施設内の仕事をしていただいている。行っていただいた後は感謝の気持ちをお伝えしている。また、希望を伺って入居者様のやりたい事を行っていただいている。また、食べたいもの、好きな物を希望した時に食べて頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見やドライブなど行事で苑外に行く事もあるが、回数は少ない。気候によって施設の庭に出たりする。外出の回数を増やしていく事が課題である	季節や体調などに配慮され、庭に出たり受診の際は少し遠回りをしてドライブを楽しむよう支援に努めています。回数は多くないものの、年間計画を立てて夕食やドライブを実施されています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、数人の方がお金を所持しているが、買い物をする事が殆どない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話を希望した場合に施設の電話より電話を行って会話をしている。家族の方よりお電話を頂き会話をしている。家族や知人の方に年賀状を書いた方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に飾り付けを行っている。施設内には温湿度計を設置し、基本の温湿度を画面にし壁に貼り、その温湿度に近づけるよう機器を使用し管理している。また、日光の当たり具合や不快な音などを出さないように入居者様の意見を参考に職員が管理を行っている	利用者一人ひとりが、居心地よく安全・安心して過ごせるよう温湿管理や使い易い家具の配置、季節を感じる空間づくりをされています。散歩の際に摘んできた花を飾ったり、職員と一緒に作成した作品を飾り、利用者と一緒に居心地のよい空間づくりを工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が一緒に過ごしたり、ひとりでゆっくり過ごせるよう、施設内の数か所に共用のソファや椅子などを設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には、今まで使い慣れた布団や食器類いつも持っていた物などを持参していただく様にお願ひし、持って来ていただいている。全員ではないが、入居者様の気に入った物や家族からのプレゼント、家族との写真など貼ったりして居心地の良いお部屋	利用者が居心地よく過ごせるよう、馴染みの物を持ち込んだり家族の写真を飾り、工夫された居室づくりに取り組まれています。利用者が安心・安全に過ごせるよう、温湿管理に配慮された取り組みをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー手すりを設置し、入居者様お一人でも施設内の移動がしやすいようにしている。各部屋は色で分けられており、希望があればドアに名前を張り付ける対応をしている。また、トイレのドアなどに絵付きのトイレの張り紙をして場所を印している		